

精神看護専門看護師の活動

西川 律子

日本医科大学付属病院 看護部 精神看護専門看護師 (リエゾン)

The Role of the Certified Nurse Specialist in Psychiatric and Mental Health Nursing

Ritsuko Nishikawa

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2012; 8: 228-229)

Key words: Certified Nurse Specialist in Psychiatric and Mental Health Nursing, liaison psychiatric nursing

はじめに

リエゾン精神看護領域を担当する精神看護専門看護師は、一般的にはリエゾンナースと呼ばれる。リエゾンナースの活動の目的は、精神看護領域の専門的技術を持ち、かつそれを他科の看護領域に統合することにより、身体疾患をもつ患者や家族に対して質の高いケアを提供すること、さらに、ケアする看護師およびチーム医療のメンバーを支援することである。以下にその主な活動内容を紹介する。

1. 患者へのケア

患者に対しては、精神療法に基づいた面接、リラクゼーション、精神科医の治療的介入が必要かどうかの見極めなどを実施している。

例えば、ある病棟看護スタッフたちは、ナースコールを頻回に鳴らして看護師を呼ぶ患者への対応に難渋していた。リエゾンナースが面接をしたところ、患者は疾患について、これからの自分の生活についての不安が非常に強いことが分かった。その後、面接を何度か繰り返すことで、患者は自分の不安に気づくことができ、その不安と上手に付き合うことができるように

なった。患者の情動が安定傾向になるとともに、ナースコールが鳴る回数も軽減した。

2. コンサルテーション

病棟看護師から患者へのケアについて相談を受けた場合、精神看護に基づくアセスメントやケア方法を助言している。看護師が日々行うケアにすぐ活かせるような助言となるよう、リエゾンナースは可能な限り、相談者である看護師だけではなく、患者にもかかわることを心がけている。相談者に対して、リエゾンナース自身が観察、アセスメントした結果をフィードバックしながら、ケアの方向性をともに考えている。その結果、病棟看護師たちは、安易に薬物治療に頼るばかりでなく、アセスメントに基づいたケアを組み立てられるようになりつつある。

3. 教育

リエゾンナースは、精神看護の知識（主にアセスメントの視点）と技術を学ぶ機会を看護師に提供している。特に最近では、付属病院においてもせん妄ケアの充実化を図ることが急務であるため、せん妄に関する教育に力を入れている。せん妄は、軽症のうちに見極

め、適切なアセスメントに基づいた知識・ケアを実践することが重要なポイントだといわれている。そのため、精神神経科の医師と協働しながら、付属病院内の各病棟看護師を対象とした勉強会を、1年間にわたって実施した。結果、看護師のせん妄に対する理解、学習に対する意欲は増した。看護師は、勉強会で学んだ知識を実務に活かしている。今後も、せん妄、それ以外の精神看護に関する教育プログラムを企画、実践していく予定である。

4. 倫理調整

専門看護師であるリエゾンナースは、倫理的側面から患者や家族の擁護に努め、患者にかかわる医療関係者間の調整を担う役割をもっている。これまでに、特にうつ病や統合失調症など、精神疾患を抱えて身体疾患に罹患し、治療に関する意思決定をしなければなら

ない患者、家族を擁護するために支援してきた。今後はさらに、チーム医療の流れのなかで、倫理的問題に対する看護師の感受性が高まるように、教育支援していく必要があると考えている。

おわりに

専門看護師は、患者や家族がより良いケアを受けられるよう、高度看護実践家として、水準の高い看護ケアを効率よく提供すること、医療チームへのサポートや教育、機能的なケアシステムの構築などに取り組んでいく必要がある。付属病院のリエゾンナースとして、これまで実践してきたことを基盤とし、今後も精神医学、看護の知識や技術を自己研鑽しながら、与えられた役割を遂行していきたい。

(受付：2012年3月29日)

(受理：2012年5月18日)